

チームで『楽しく、ためになる』 を合言葉に患者の思いに より近づいて考える参加型研修会

公立置賜総合病院 外来看護師長 井瀨奈緒美

当院が行っている糖尿病の研修会には、3つの特徴があります。1つ目は、いろいろな職種の日本糖尿病療養指導士(CDEJ)がチームとなり、企画・運営していること、2つ目は、院内外の糖尿病患者さんにかかわっているスタッフに参加の声掛けしていること、3つ目は、患者さんの思いに近づける研修会を企画していることです。

1. 1人の力より2人の力、2人の力より3人の力、3人の力よりチームの力!

当院には4職種(看護師, 管理栄養士, 薬剤師, 臨床検査技師)13名のCDEJがいます。そのCDEJを中心に糖尿病専門医や医師, 研修会のサポートスタッフなども含め16人前後で企画, 運営しています。そのため, 研修会にはたくさんのアイデアが集まります。研修会の前に2~3回くらいみんなが集まり「どのような内容にするか」「テーマやポスターは?」「誰が担当?」など相談しながら決めていきます。

2. 内外の糖尿病患者さんにかかわるスタッフの顔のみえる関係づくりを目指して!

病院と連携のある医師同士は, 研究会などで顔を合わせることがありますが, かかりつけ医の看護師さん, 調剤薬局の薬剤師さん, 地域包括支援センターなどのケアマネジャーさん, 各福祉施設の介護福祉士さんや介護士さんなどは, 顔を合わせて患者さんについて話をする機会はありません。

そこで, 研修会の案内を院内だけでなく, 事務部門にも協力してもらい, 連携をとっている病院, クリニック, 地域包括支援センターなどにも送っています。特に, 保健福祉関係者は, 糖尿病の研修会の案内が少ないため, 熱心に研修会に参加して下さり, この研修会を通して患者さんの連携が深まった症例もありました。

3. 参加型研修会で, 患者さんの思いに近づこう!

『糖尿病』と言われても患者さん個々での捉え方, 思いが違います。同じように糖尿病にかかわるスタッフにおいてもそれは同じです。そこで, 研修会では, 講義だけでなく, ゲーム, 寸劇, グループワークなども入れながら, 糖尿病の理解をより深め, 自分が患者さんの立場だったらどう考えるかななどの内容を取り入れました。たとえば, 『どうしてAさんは, 民間療法を試してみようと思ったのか』, 『高齢者のBさんの間食をどう考えるか』などです。いろいろな立場での意見も聞くことができ, 自分たちの考えも深まりました。参加型の研修会は, 受け身的に研修会に参加するより内容の理解も深まります。

以上のような3つの特徴をもった研修会を振り返ってみると, 研修会を企画するCDEJやサポートスタッフたちにとっても, 講義の資料作りや寸劇で患者役を演じ新たな気づきなど, 自分たちのスキルも上がり『楽しくて, ためになる』研修会になりました。

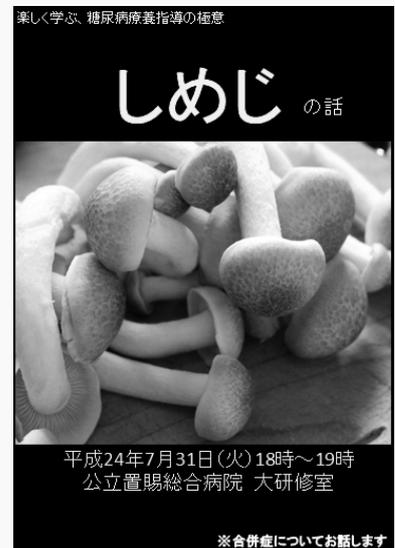


図1 合併症について研修会をした時のポスター

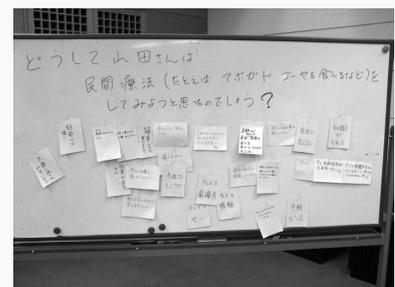


図2 グループワークで出た意見を出し合って



図3 グループワークの発表